151.

616-002.6 : 612.118.22

驅黴療法ト黴毒血清反應特ニ M. K. R. II. ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任根岸教授）

副手 醫學士 大道峰雄

[昭和 11 年 9 月 21 日受稿]

*From the Dermato-Urological Clinic of the Okayama Medical College
(Director: Dr. H. Negishi, Prof. of the Clinic).***About the Meinikes New Clarification Test (M. K. R. II.)
in the Treatment of Syphilis.**

By

M. Ohmichi.

Received for publication 21. September 1936.

It is of course more important for the diagnosis of syphilis, in general, that high specificity rather than sensitivity should be accepted as the primary recommendation of a serological test procedure. But it has been considered proper to apply highly sensitive methods of testing to the serum of known syphilitic patients under treatment, in order to detect the slightest degree of positiveness as a guide to continuance. In the specificity of serological tests, the complement fixation procedure is the best

method. And the Meinikes New Clarification Test is the most sensitive reaction of all precipitation tests. While the complement fixation tests should be handled by the serologist himself or a technician of years of experience only, this procedure can be performed by any amateur anywhere, at any time, without a grave risk of error. The author, therefore, as a clinical dermatologist, unhesitatingly supports this method as the best standard procedure for the treatment of syphilis.

(Autoreference)

論文内容

第1章 結 論

第2章 症 例

第1節 第1期顯症竝ニ潜伏微毒

第2節 第2期顯症竝ニ潜伏微毒

第3節 第3期顯症竝ニ潜伏微毒

第4節 無自覺性微毒

第5節 晩發性先天微毒竝ニ神經微毒

第3章 M. K. R. II. ト育髄液検査成績ニ就テ

第4章 考 按

第5章 結 論

文 獻

第1章 結 論

驅微經過即チ微毒患者ニ於ケル驅微劑ニ依ル治療ノ状態ヲ觀察スルガ爲ニ我々臨牀家ハ專ラ微毒血清反應ヲ以テ其ノ指針トシテ居ル事ハ勿論ナリ。而シテ斯カル血清反應中各自ノ選擇ニヨリテ多少採用術式ニ相違アルハ當然ナリ。併シナガラ普通補體結合反應術式ト沈降反應術式ノ何レカ 1, 2 ヲ併用シテ其ノ觀察ノ指針トセリ。從來採用セラレタル血清反應トシテノ補體結合反應ハ言フマデモナク Wassermann 氏原法或ハ其ノ變法タル Browning 氏反應ナリ。沈降反應トシテハ普通村田氏反應, Kahn 氏反應, Meinicke 氏第3濁濁法或ハ第1澄清反應, 更ニ Sacha-Georgi 氏反應等ノ何レカ 1, 2 ヲ採用セリ。周知ノ如ク補體結合反應ハ沈降反應ニ比シテ驅微ノ經過ト共ニ早期ニ陰性トナルモノナリト雖モ沈降反應ハ從來補體結合反應ニ比シ銳敏度高ク夫レダケ非特異性率ノ大ナルモノアリトセラレ其ノ整調トシテ常ニ補體結合反應ヲ以テ標

準トセラレタルモ 1932 年 Meinicke 氏ハ從來ノ同法ニ改良ヲ加ヘ第2澄清反應ノ考案トナリ其ノ後内外ヨリ多數ノ追試發表アリ, 或者ハ之ヲ從來ノ沈降反應ト其ノ價值ヲ同等視シ, 或者ハ之ヲ優秀ナルモノナリト説ケリ。ヨリテ余モ亦本法ヲ多方面ヨリ追試スル處アリ。今回驅微療法ト本法ノ消長ニ就テ聊カ觀察セル所ヲ述ベ其ノ成績ニ就テ敢テ卑見ヲ加ヘントス。

第2章 症 例

第1節 第1期顯症竝ニ潜伏微毒ニ

就テ

實驗症例ハ全 11 例ニシテ内第1期顯症微毒ハ 10 例, 第1期潜伏微毒ハ 1 例ナリ。各症例ニ於ケル實驗成績ハ第1表ノ如ク, 今第1期顯症微毒ニ就テ觀察スルニ, 微毒感染後血清反應陽性轉向期ハ既ニ Blumenthal, Fischer, 中野, 徳永, 遠山諸氏ガ報告セルガ如ク普通 4 週間ニテハ余ガ例ニ於テモ陽性反應ヲ呈セズ。勿論 Gennerich, Lesser 氏等ノ報告ノ如ク例外的結果ヲ示ス場合モアルナレ共余ノ症例ニ於テハ 11 例中 10 例ニ於テ陽性ヲ認メズ。但シ第6例ニ於テ丁度 4 週間目ニ採血検査セルニ Browning 氏反應(以後 B. 氏反應ト略稱ス)ニ於テノミ陽性ヲ呈セリ。本患者ニ即チ 0.24 g ノ純ネオ・タンブルサン (N. N. T.) ヲ注射誘發ヲ試ミタルモ成功セズ, 却テ弱陽性ガ陰性成績ヲ示スニ至レリ。本症例ヨリシテ Gennerich 氏ガ謂ヘルガ如ク微毒感染後 4 週間以内ニ於テハ誘發現象ハ認メラズトノ説ニ一致スルモノト思惟サル。他方「サルバルサン劑」注射ニヨル B. 氏反應ノ陰性化ハ病變進行ニヨル微毒血清反應物質ノ體內產出ガ抑制セラルルモノナリヤ或ハ B. 氏反應ノ非特異性ヲ呈セルモノナリヤ或ハ又操作上ノ過誤

ナリヤ否ヤノ點ニ關シテハ後2者ノ場合本症例ニ於テ到底考ヘラレズ、前者ヲ取ルガ正常ナルモノト信ズ。更ニ興味深キハ、本症例ノ丁度對照的例トシテ考ヘラルルハ第10例ニシテ患者ノ微毒感染後4週間目ニ採血セル結果、反應ハ陰性ニシテ第6週間目ニ採血スルヤ M. K. R. II. 不定成績ヲ示シ他ハ陰性ナリ。本症例ニ N. N. T. 0.48 g ヲ注射セルニ注射後2週間目ノ採血ニ於テ Browning 氏反應ハ明カニ不定ノ成績ヲ示シ M. K. R. II. ハ弱陽性ヲ呈シ村田氏反應ノミ依然陰性成績ヲ示セリ。而シテ本患者爾後 N. N. T. 0.72 g 並ニ Giflon 注射4回ヲ施セシニ Browning 氏反應ハ依然不定成績ニシテ M. K. R. II. 及ビ村田氏反應ハ弱陽性ヲ呈セリ。斯クノ如キ結果ヨリスレバ前述ノ N. N. T. 0.48 g 注射ハ丁度誘發反應トシテ利用セラレ且此結果ヲ以テ誘發ニ成功セルモノト思惟サル。尙ホ興味アルハ M. K. R. II. ノ成績ニシテ本症例ハ僅ニ1例ニ過ギザレドモ本反應ノ微毒血清ニ於ケルヤ何レノ反應ヨリモ早期ノ診斷の價値充分ニアルモノト信ズ。

第1表

(W. ハ「ワ」氏本法, B. ハ Browning 法,
M. ハ Meinicke 第2澄清法, K. ハ Kahn 法)

第1例 山崎某 65歳 微毒性横痃

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
	「サルバルサン」注射1回 腎筋内注射3回					
10/V			++	++	++	++
	N.N.T. 1.5g Milaneuen 13回					
11/VI			-	++	++	-
	N.N.T. 2.1g					
25/VI			-	++	++	-

	N.N.T. 3g				
15/VII			-	++	±

備考 感染時期不明ナルモ約2週間前ヨリ右側鼠蹊淋巴腺腫脹ヲ生ジ某醫師ノ診療ヲ受ケタリ。
當時血清反應ハ陽性ナリシト謂フ。

第2例 井手某 63歳 混合下疳 3週間

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
13/II			-	-	-	-
	N.N.T. 0.7g Saviolnatrium 0.9g Milaneuen 11回					
12/III			-	-	-	-
	N.N.T. 0.7g Saviolnatrium 1.35g					
5/VIII			-	-	-	-

備考 冠狀溝ニ於ケル潰瘍。

第3例 次田某 63歳 硬性下疳兼無痛性横痃 1箇月

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
9/III		±	++	++		++
	Neohisorin 1.8g Neostibarsan 0.9g Milaneuen 15回					
11/IV		-	-	++		++

備考 冠狀溝ニ於ケル潰瘍並ニ兩側性無痛横痃

第4例 鳥越某 627歳 微毒性無痛横痃 2箇月

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
12/VI		++	++	++		++
	N.N.T. 1.2g Milaneuen 4回					
9/VII		-	±	++		±

備考 冠狀溝ニ於ケル潰瘍並ニ兩側性無痛横痃

第5例 岡本某 ♂ 20歳 硬性下疳 2週間

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
15/VII			-	-	-	-
	N.N.T. 0.9g Milaneuen 6回					
6/VIII			-	++	+	+

備考 冠狀溝ニ於ケル潰瘍

第6例 森某 ♂ 21歳 硬性下疳無痛性横痃 4週間

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
20/I		-	+	-		-
	N.N.T. 0.24g					
24/I		-	-	-		-

備考 龜頭ニ於ケル潰瘍並ニ無痛性横痃

第7例 竹内某 ♂ 27歳 混合下疳 9週間

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
16/VI		-	-	+		-
	Neohisorin 0.8g N.N.T. 0.6g Milaneuen 6回					
7/VII		-	-	+		-

備考 包皮ニ於ケル潰瘍並ニ半有痛性横痃ニテ某
醫師ノ治療ヲ受ケ同時ニ「サルバルサン」3本ヲ
受ケタリト云フ。

第8例 山内某 ♀ 23歳 混合下疳 1箇月

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
22/VIII			++	++		++
	N.N.T. 0.4g Milaneuen 4回					
3/IX			++	++		++

備考 肛門部ニ於ケル潰瘍

第9例 林某 ♂ 37歳 硬性下疳 10日

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
18/VIII		-	-	-	-	-
	N.N.T. 1.4g Milaneuen 6回					
25/VIII		-	-	-	-	-
	N.N.T. 2.3g Milaneuen 9回					
25/IX		-	-	-	-	-

備考 繫帶ニ於ケル潰瘍

第10例 森崎某 ♂ 42歳 第1期梅毒 4週間

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
2/XI			-	-		-
15/XI			-	±		-
	N.N.T. 0.48g					
29/XI			±	+		-
	N.N.T. 0.72g Giflon 4回					
5/XII			±	-		+
	N.N.T. 1.08g Giflon 6回					
13/XII			-	±		-
	N.N.T. 2.5g Giflon 12回					
23/XII			-	+		-

備考 約4週間前冠狀溝ニ潰瘍ヲ生ゼシガ賣藥ニ
ヨル治療ヲ計リシモ輕快セズシテ今日ニ至ル。

第11例 津阪某 ♂ 27歳 第1期潜伏梅毒 1箇月

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
6/II		±	++	++		++
	N.N.T. 0.7g Milaneuen 4回					
4/V		-	-	++		++

備考 1箇月前陰莖ニ潰瘍ヲ生ゼシ事アリシモ現
在何等認ムベキ所見ナシ。

第2節 第2期顯症竝ニ潜伏微毒ニ

就テ

第2期顯症微毒2例、第2期潜伏微毒7例ニ就テ M. K. R. II. ノ驅微經過中ニ於ケル消長ハ第2表ノ如シ。即チ M. K. R. II. ハ他ノ何レノ血清反應ヨリモ最モ徐々ニ陰性化スルモノナルハ第2, 3, 6 及ビ 8 例ニ於テ明示サル。第2期顯症微毒ノ2例ヲ比較對照シ見ルニ第1回採血當時ハ同強度ニ現レタル反應成績ガ略ガ同一量ノ蒼鉛劑即チ Milaneuen 及ビ「サルバルサン劑」ノ注射ヲ施セルニ拘ハラズ驅微中ニ於ケル血清反應ノ消長ニ可ナリ明カナル相違ヲ見出ス事アルハ勿論吾人ノ周知セル事實ニシテ之ガ素因トシテ謂ハルハ患者ノ體質、體格、榮養狀態及ビ合併症ノ有無ノ關係ナリ。就中本質的體質ノ相違ハ血清學的ニ觀テ血液型ニ一脈相通ズル處アリ。從來サルバル驅微經過ト血液型ノ關係ガ論議サレ得ル處ナリト信ズ。尙ホ第2期潜伏微毒ノ各症例ニ就テ觀察スルニ興味アルハ第9例ノ症例ニシテ來院當時ノ血清反應成績ハ第2表ノ如ク、患者入院後 Malaria 療法ヲ受ケ、第10回ノ發熱發作後「キニーネ劑」ニヨリテ原蟲驅逐下熱セシメ第1日目採血調査セシニ第1回採血調査セシ時陰性ナリシ B. 氏反應ハ中等度陽性、不定成績ナリシ村田氏反應ハ中等度陽性ニ轉ジ更ニ弱陽性ナリシ M. K. R. II. ハ強陽性ニ、Kahn 氏反應ハ強陽性ニ變化スルヲ見タリ。斯クノ如キ結果ヲ大橋氏ノ所謂「マラリヤ」ニ於ケル陽性變化ハ發熱時ニハ認メラルモノナルモ解熱後ハ認メラザルモノトセバ本結果ハ「マラリヤ」ニ由ル誘發反應ト解ス可ク又小林氏ノ謂フ「接種マラリヤ」ノ陽性現象ハ「キニーネ」ノ内服ニヨル「マラリヤ原蟲」驅逐後從ツテ解熱後大略各々1乃至6週間ハ持續スルモノナリトノ說ヲ取レバ本結果ハ「接種マラリヤ」ニ於ケル微毒様血清反應ノ現象ナリトモ解サル可シ。

斯クノ如ク「接種マラリヤ」ニ由ル陽性變化ノ意義ハ至難ノ問題ヲ吾々ニ與ヘルモノト思考ス。特ニ該患者血清ガ微毒ナルニ於テオヤ。

第2表

第1例 田村某 ♀ 18歳 微毒性丘疹

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
7/II		±	+++	++	+++	++
	N.N.T. 0.24g Milaneuen 1回					
12/II		++	+++	+++	+++	+++
	N.N.T. 2.1g Milaneuen 9回					
11/IV		±	+++	+++	+++	+++
	N.N.T. 3.3g Milaneuen 12回					
19/V		±	++	+++	++	+++

備考 陰部竝ニ肛門部ニ於ケル無痛性丘疹。

第2例 石井某 ♂ 52歳 微毒性丘疹

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
6/IV			+++	+++	+++	+++
	N.N.T. 2.3g Milaneuen 12回					
6/VII			—	+++	±	—
	N.N.T. 2.9g					
25/VII			—	+	—	—

備考 外陰部ニ於ケル無痛性發疹。

第3例 脇坂某 ♂ 30歳 第2期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
12/III		+++	+++	+++	+++	+++
	N.N.T. 0.7g Milaenuen 5回					

11/IV		卅	卅	卅	卅	卅
	N.N.T. 2.8g Milaneuen 15回					
25/VI		—	—	±		—

備考 約6年前冠狀溝ニ潰瘍ヲ生ジ次デ兩側淋巴
腺ノ無痛性腫脹ヲ生ゼリ。當時賣藥療法ニテ治
癒セリト云フ。現症トシテハ左側腋ノ下竝ニ兩側
鼠蹊淋巴腺ノ腫脹ヲ數箇觸診シ得ル以外著變ナ
シ。

第4例 中尾某 ♂ 25歳 第2期潜伏
微毒 7箇月

採血日	「サルバルサン」竝 ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
12/II	「サルバルサン」9 本 腎筋内注射 2本	卅	卅	卅	卅	卅
	N.N.T. 1.3g Milaneuen 4回					
9/VII		++	卅	卅	卅	卅

備考 7箇月前包皮ニ潰瘍ヲ生ジ1週間ニ右側鼠蹊
淋巴腺腫脹ヲ認メタリト云フ。當時某醫師ノ微
毒ナル診斷ノ下ニ「サルバルサン」9本、腎筋内
注射2本ヲ受ケタリト云フ。現在腋窩、肘窩、
顎下、頤下腺等ニ豌豆大腫脹ヲ認メタリ。

第5例 平田某 ♂ 47歳 第2期潜伏
微毒 4箇月

採血日	「サルバルサン」竝 ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
6/VII	「サルバルサン」9 本 水銀劑注射 18本	—	—	+		+
	N.N.T. 15g Milaneuen 5回					
23/VII		—	—	—		—

備考 數箇ノ豌豆大腫脹ヲ腋窩、肘窩、顎下、頤
下腺竝ニ兩側鼠蹊淋巴腺等ニ觸診シ得ル以外著
變ナシ。

第6例 櫻井某 ♂ 27歳 第2期潜伏
微毒 1年6箇月

採血日	「サルバルサン」竝 ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
25/IX			卅	卅	卅	卅
	Sulfoehramisol 0.9g Milaneuen 6回					
31/X			++	卅	++	卅
	Sulfoehramisol 2.25g Milaneuen 9回					
19/XI			+	++	++	++
	Sulfoehramisol 2.25g N.N.T. 18g Milaneuen 13回					
29/XII			—	+	±	—

備考 1年6箇月前冠狀溝ニ於ケル潰瘍竝ニ無痛
性腫脹ヲ生ジ賣藥治療ニテ治癒セリト云フ。現
症トシテ何等認ムベキ所見ナシ。唯現在腋窩、
肘窩、顎下、頤下腺等ニ豌豆大腫脹ヲ認メタリ。

第7例 吉本某 ♂ 31歳 第2期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」竝 ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
22/X			卅	卅	卅	卅
	N.N.T. 1.0g Milaneuen 4回					
12/XI			卅	卅	卅	卅

備考 現症トシテ腋窩、肘窩、顎下、頤下腺等ニ
豌豆大腫脹ヲ認メタル外何等所見ナシ。

第8例 森屋某 ♂ 45歳 第2期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」竝 ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
11/IX		卅	卅	卅		卅
	Sulfoehramisol 0.9g Milaneuen 6回					
21/IX		卅	卅	卅		卅
	Sulfoehramisol 1.895g Milaneuen 6回					

2/X		±	+	++		++
	Sulfoehramisol 3.584g Milaneuen 8回					
9/X		—	—	++		±

備考 病毒感染機會再三ナラズ其ノ外一時的治療ニ因リテ糊塗シタルモ本年8月包皮ニ生ゼル潰瘍(無痛性)ノ治療ヲ受ケタルモ益々増大同時ニ兩側無痛性横痃ヲ來タシ且全身ニ丘疹性發疹ヲモ認メタリ。

第9例 中庭某 8 34歳 第2期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
15/V			—	+	±	±
	Malatia-kur Milaneuen 11回					
19/VI			++	++	++	++
	Milaneuen 11回 N.N.T. 1.5g					
15/VII			—	+	±	—

備考 昨年高松市ニ於テ硬性下疳ノ診斷ノ下ニ「サルバルサン」5回ヲ受ケタリ後倉敷中央病院ニ於テ「サルバルサン」8回ヲ受ケ後血清反應陰性ナトリ謂ハル。後視力障礙ヲ訴フ。再度倉敷中央病院ニテ微毒性ノモノトシテ10回「サルバルサン」ヲ受ケ其ノ後腰痛起リ採血血清反應ヲ受ケタルニ陽性ト謂ハレ。10本ノ「サルバルサン」並ニ水銀塗布療法ヲ受ケタリト云フ。現症トシテハ腋窩、肘窩、鼠蹊部ノ淋巴腺腫脹ヲ認メル外著變ナシ。

第3節 第3期顯症並ニ潜伏微毒ニ

就テ

第3期顯症微毒2例ニ就テ觀察スルニ2例トモ各反應ハ何レモ強陽性ヲ呈セシモ驅微ト共ニ第1例ノ如キハ漸次先ツ Browning 氏反應、次デ沈降

反應中 Kahn 氏反應ヨリ陰性化ノ傾向ヲ示シタリ。第2例ニ於テハ「サルバルサン劑」2.1gノ注射ヲ施行セルモ蒼鉛劑ヲ併用セザリシ爲カ陰性化傾向ハ毫モ示サザリキ。勿論斯クノ如キ症例ニ於テハ疾病進行程度如何ニ由ルハ疑フ可クモナケレ共實際「サルバルサン劑」注射ト同時ニ蒼鉛劑ヲ併用セザリシ事モ亦大ナル原因ヲ及ボスモノト思考サル。潜伏微毒20例中2, 3症例ニ就テ詳述センニ第4例ヲ觀ルニ最初第1回驅微療法開始時ノ血清反應成績ハ M. K. R. II. (++)、W. 氏原法(+), B. 氏反應(+), K. 氏反應(++)及ビ村田氏反應(+)ニシテ「サルバルサン劑」2.1g 及ビ Milaneuen 14回注射後ノ結果ハ M. K. R. II. (++)ニテ他ノ何レノ反應モ陰性ナルニ M. K. R. II. ノミ著シキ鋭敏度ヲ示シ之ガ非特性ナルヤ否ヤノ疑問ヲ生ゼシモ本症例ニ於テ更ニ引續キ療治ヲ繼續セシニ第3表ノ如ク其ノ經過中ニ於テ果シテ本患者ニ於ケル血清反應ノ何レヲ以テシテモ明カニ潜伏狀態ナリヲ示セリ。M. K. R. II. ガ非特異性ヲ示サザリシヲ表現セシモノト思考サル。第5例ニ於テハ既往ニ於テ完全ニ近キ驅微療法ヲ受ケ當時 M. K. R. II. ハ調査セザリシモ其ノ他ノ反應何レモ陰性ヲ示セシヲ以テ治癒セシモノトシテ經過ヲ觀察シ居ルニ最近ニ至リ全身倦怠感ヲ訴ヘ再度當科ヲ訪問セリ。即日血清反應ヲ調査セシニ M. K. R. II. ガ弱陽性ヲ呈セシ以外他ノ反應ハ何レモ陰性ナリキ。故ニ直ニ脊髓液検査ヲナセルニ Nonne (±), Pandy (++)、Weichbrodt (++)ニシテ Wak (—)ナル成績ヲ得タリ。勿論 Mastix, Goldsol ニヨル成績モ亦本患者脊髄液ニ微毒性變化ノ存在セルヲ知ル。斯クノ如ク血清ニ於ケル M. K. R. II. ハ實際脊髄液ニ於ケル成績ト合致ス。此結果ニヨリテ本患者ハ仍チ入院再度發熱療法ヲ受ケタリ。今回ハ「マラリヤ接種」ヲ止メテ Pyrifur ニ依ル發熱療法ヲ行ヒタリ。退院直前採血調査セルニ血清反應

即チ B. 氏反應(一), M. K. R. II. (一) 及ビ村田氏反應(一)ノ結果ヲ得タルヲ以テ一時退院セリ。其ノ後9箇月ヲ經テ再度來院血清検査ヲ行ヒ B. 氏反應及ビ村田氏反應, M. K. R. II. 何レモ陰性ナリ。故ニ再度脊髄液ヲ調査セシニ前回ニ比シ著シク症狀回復シ Nonne (一), Pandey (+), Weichbrodt (+) 及ビ Mastix, Goldsol 曲線ノ如キモ殆ド正常化セルヲ認メタリ。患者ハ尙ホ引續キ治療ヲ希望セシカバ今回ハ即日入院 Sulfurol ニヨル發熱療法ト「サルバルサン劑」總量 0.9 g 並ニ Milaneuen 8 回ヲ施行セシガ其ノ後血清反應依然變化ナク斯クシテ退院セシメタリ。本患者ノ如キハ完全ナル驅微療法ニヨリテ全治セルモノト思考ス。更ニ第6例ヲ觀察スルニ驅微療法開始前ニ於ケル血清反應ノ成績ハ M. K. R. II. ハ弱陽性ヲ呈セシモ W. 氏原法(一), B. 氏反應(一), 村田氏反應(一) 及ビ K. 氏反應(一)ヲ示セリ。故ニ驅微療法ヲ型ノ如ク開始シタリ。其ノ間脊髄液ヲ調査セシニ Nonne (+), Pandey (++) , Weichbrodt (++)ニシテ Mastix 及ビ Goldsol 曲線ハ又微毒ニ罹患セル事ヲ明示セリ。然ルニ「サルバルサン劑」2.6g 並ニ Milaneuen 11 回ヲ注射セシ後血清反應ヲ觀ルニ WaR. (一), B. 氏反應(一), 村田氏反應(一)ナルニ M. K. R. II. (±)ヲ示セリ。故ニ脊髄液ノ再調査ヲナセルニ Nonne (一), Pandey (++) , Weichbrodt (+)ニシテ Mastix, Goldsol 曲線ヲ觀ルニ著シク回復ヲ認メタリ。(後述ス可シ) 更ニ第15例ヲ觀ルニ來院當時ノ血清反應成績ハ B. 氏反應(一) 並ニ村田氏反應(一)ニシテ M. K. R. II. (++)ナリ。ヨリテ脊髄液調査ヲナセルニ Nonne (一), Pandey (++) Weichbrodt (++)ニシテ Mastix 及ビ Goldsol 曲線ハ明カニ微毒曲線ヲ表ハセリ。而シテ本症例ハ「接種マラリヤ」ニヨル誘發反應ヲ驅微經過中ニ於テ示セリ。

第 3 表

第1例 入江某 ♂ 39歳 辜丸微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
27/VIII	N.N.T. 0.6g Milaneuen 5回		+++	+++		+++
17/IX	N.N.T. 1.8g Milaneuen 11回		++	++	++	++
21/IX	N.N.T. 2.4g Milaneuen 13回		++	++	++	++
12/XII			++	++	++	++

備考 約1年前無痛性右側辜丸腫脹ヲ認メタルモ何等意ニ介セズ放置セルニ3箇月前ヨリ局所穿孔ヲ生ジタルモ自然治癒セリト云フ。然ルニ最近前記1箇所ニ穿孔ヲ再度生ゼリト局所ヨリハ「スピロヘーター」ヲ檢出セリ。

第2例 明石某 ♂ 32歳 多發性護謨症

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
3/XI	Neoarzenol 1.2g		++	++	++	++
10/XII	Neoarzenol 2.1g		++	++	++	++
31/XII			++	++	++	++

第3例 岡市某 ♂ 30歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
19/III	Sulfoehramisol 1.05g Milaneuen 5回	±	++	++		++
13/IV	Sulfoehramisol 1.95g Milaneuen 9回	+	++	++		++

23/IV		—	++	++		++
	Sulfoehramisol 3g Milaneuen 13回					
28/V		—	+	++		++
	Sulfoehramisol 3.6g Milaneuen 13回					
11/VI		—	+	++		+
	Sulfoehramisol 4.3g Milaneuen 13回					
30/VI		—	—	++		—

備考 7 年前半有無性横痃ヲ經過セリ當時何等處
置セズ自然消失、現症トシテ何等認ムベキ全身
症狀ナシ。

第4例 新見某 ♀ 48歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
15/I	N.N.T. 2.1g Milaneuen 14回	—	—	++		—
	N.N.T. 0.4g					
26/I		—	—	++		+
	N.N.T. 0.6g					
4/II		—	—	+		—
	N.N.T. 0.8g					
12/II		—	+	++		+
	N.N.T. 1.2g					
19/II		—	—	+		+
	N.N.T. 1.4g					
19/IX		±	+	++		+

備考 患者ハ 21 歳ニシテ微毒ニ犯サレ爾來屢々
驅微療法ヲ受ケタリト云フ。現症トシテ何等認
ムベキ所見ナシ。今回ノ驅微療法開始前ニ於ケ
ル血清反應ハ W.(+), B.(+), M.(++), K.(++),
村田(+)ナリ。

第5例 岡野某 ♂ 33歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
18/VI		—	—	—		—
	N.N.T. 0.72g Milaneuen 2回 Pyrifer-kur					
(1934) 5/VII			—	—		—
(1935) 15/IV			—	—	—	—
	Sulfrol-kur N.N.T. 0.9g Milaneuen 8回					
27/VI			—	—	—	—

備考 約5年前冠状溝ニ潰瘍ヲ生ジ其ノ後1週間
ニシテ左側鼠蹊部ニ無痛性横痃ヲ認メタリ。當
時某醫師ノ微毒診斷ノ下ニ「サルバルサン」15本
蒼鉛剤20本ヲ受ケタリト云フ。然ルニ3年前ヨ
リ全身ニ倦怠感アリ當科ニ於テ第3期潜伏微毒
ノ診斷ノ下ニ「マテリヤ」療法ヲ受ケ同時ニ「サ
ルバルサン」3.7 gram ノ注射ヲ受ケタリ。當時
全身ノ倦怠感消失セリ。然ルニ1年半前ヨリ再
度全身ノ倦怠感頭痛並ニ發作性腕關節痛アリト
謂フ。現症トシテ兩側鼠蹊淋巴腺數箇豌豆大ニ
腫脹セルヲ認ムル以外著變ナシ。

第6例 高木某 ♂ 55歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
22/I		—	—	+	—	—
	N.N.T. 1.2g Milaneuen 7回 Myosalvarsan 7回					
12/V		—	—	+	—	+
	N.N.T. 2.6g Myosalvarsan 7回 Milaneuen 11回					
6/VII		—	—	±		—

備考 22 歳ノ時微毒ニ感染セリト謂フ。當時「サ
ルバルサン」注射ヲ受ケタルモ最近ニ至リ記憶
力減退ヲ覺ユト。現症トシテ何等認ムベキモノ
ナシ。

第7例 野田某 ♂ 29歳

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
20/VIII		++	++	++		++
	N.N.T. 0.2g Milaneuen 1回					
2/X		++	++	++		++
30/X		++	++	++		++
	N.N.T. 3.1g Milaneuen 10回					
15/XI		++	++	++		++

備考 約6年前微毒罹患ヲ思ハシムル如キ症状アリシモ何等意ニ介セズ今日ニ至ル。現在何等認めベキ所見ナシ。

第8例 民某 ♂ 35歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
17/XII		++	++	++	++	++
	N.N.T. 1.5g Milaneuen 9回					
8/III		++	++	++	++	++

備考 12年前冠狀溝ニ於ケル硬性下疳。現症トシテ何等認めベキ所見ナシ。

第9例 入江某 ♂ 31歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
8/III			-	-	-	-
	Malaria-kur N.N.T. 2.9g Milaneuen 13回					
23/IX			-	-	-	-

備考 約14年前微毒ニ感染シ「サルバルサン」10本並ニ水銀剤注射16本ヲ受ケタリト云フ。然ルニ最近記憶力減退。頭痛ヲ訴フルニ至レリ。現症トシテ何等認めベキ所見ナシ。

第10例 石田某 ♂ 63歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
4/V		+	++	++		++
	N.N.T. 0.2g					
30/V		-	++	++		++
	Malaria-kur					
22/VI		-	++	++		++
	N.N.T. 1.3g Milaneuen 3回					
1/VIII			++	++		++
	N.N.T. 3.4g Milaneuen 12回					
19/IX			++	++		++

備考 約30年前冠狀溝ニ於ケル硬性下疳。當時醫師ニヨリテ驅微療法ヲ受ケタリト。最近柿沼内科ニ於テ「サルバルサン」30本、蒼鉛剤注射80本ヲ受ケタリト云フ。現症トシテハ多少記憶障礙並ニ全身ノ倦怠感アリト云フ以外何等特記スベキ所見ナシ。

第11例 花井某 ♂ 36歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
5/IX			++	++		++
	N.N.T. 0.6g Milaneuen 6回					
24/IX			++	++	++	++
	N.N.T. 1.7g Milaneuen 12回					
8/X			++	++	++	++
	N.N.T. 3.1g Milaneuen 15回 Malaria-kur					
20/XI			++	++	++	++

備考 21歳ノ頃冠狀溝ニ於ケル硬性下疳並ニ無痛性横痃。現在何等認めベキ所見ナシ。

第12例 岡部某 ♂ 51歳

採血日	「サルバルサン」並ニ 蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
12/IV		++	++	++		++
	N.N.T. 0.6g Milaneuen 4回					
22/V		+	++	++		+
	N.N.T. 1.2g Milaneuen 6回					
18/VI		-	++	++		++
	N.N.T. 2.0g Milaneuen 9回					
18/IX		-	-	++		++
	N.N.T. 2.6g Milaneuen 14回					
5/X		-	++	++		++

備考 11年前微毒ニ罹患セリト云フ。當時姑息療法ニテ放置セリト云フ。現症トシテ何等認ムベキ所見ナシ。

第13例 友松某 ♂ 65歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ 蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
25/III		++	++	++		++
	N.N.T. 0.8g N.N.T. 0.25g Syphrose 1回					
27/IV		++	++	++	++	++
	N.N.T. 1.25g Syphrose 5回					
5/V		++	++	++	++	++
	Syphrose 6回					
4/VI		++	++	++	++	++
	N.N.T. 2.45g					
11/X		++	++	++	++	++
	N.N.T. 4.05g					
8/XII		++	++	++	++	++

備考 18歳頃包皮ニ潰瘍ヲ生ゼシ事アリシモ意ニ介セズ放置セリ。現在認ムベキ所見ナシ。

第14例 田中某 ♂ 35歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ 蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
31/VIII		++	++	++		++
	Neostibarsan 1.65g Milaneuen 6回 Dmelcos-kur					
6/X		++	++	++	++	++
	Neostibarsan 1.75g Milaneuen 12回					
6/XI		++	++	++	++	++
	Neostibarsan 2.198g Milaneuen 13回					
9/XI		++	++	++	++	++
	Neostibarsan 2.198g Milaneuen 14回					
15/XI		++	++	++	++	++
	Neostibarsan 2.493g Milaneuen 14回					
5/XII		++	++	++	++	++

備考 4年前陰莖ニ下疳ヲ生ゼシモ賣藥療法ニテ治癒セリト云フ。現在何等認ムベキ所見ナシ。

第15例 鍋澤某 ♂ 36歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ 蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
15/VIII			-	++		-
	N.N.T. 0.96g Giflon 2回 Malaria-kur					
30/VIII			+	++		++
13/IX			-	++		++
	N.N.T. 2.4g Giflon 5回					
1/X	N.N.T. 2.88g Giflon 6回		-	++		±
	N.N.T. 3.84g Giflon 8回					
18/X			-	+		+
	N.N.T. 4.8g Giflon 10回					

15/XI		-	+		-
	N.N.T. 5.76g Giflon 12回				
25/XI		-	+		-
	N.N.T. 6.24g Giflon 14回				
		-	+		-

備考 15年前冠狀溝ニ於ケル潰瘍。當時硬性下疳
ノ診断ノ下ニ「サルバルサン」8本ヲ受ケタリト
云フ爾來今日ニ至ル迄「サルバルサン」26本ヲ
受ケタリト云フ。

第16例 藤原某 ♀ 42歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
24/VI			++	++	±	+
26/VI			+	++	++	++
	N.N.T. 0.8g Milaneuen 7回					
20/VII			+	++	-	-
	N.N.T. 1.14g Milaneuen 12回					
28/VII			-	±	-	-
	N.N.T. 2.34g Milaneuen 12回				-	
30/VIII			+	++		++

備考 約10年前外陰部ニ損傷ヲ生ゼシ事アリ、現
在何等認ムベキ所見ナシ。

第17例 守屋某 ♂ 52歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
13/II			++	++	++	++
	N.N.T. 0.9g Milaneuen 3回 本注射後地方醫 ニ依リ Salvarsan 17回 Bismut注射 19回					

31/VII		+	++	+	+
--------	--	---	----	---	---

備考 20年前龜頭ニ硬性下疳ヲ生ジタリト云フ。
當時「サルバルサン」3本ニテ治療ヲ中止セリト
云フ。現症トシテ右側腰痛ヲ訴フル外認ムベキ
所見ナシ。

第18例 川崎某 ♂ 34歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
1/III			++		++	++
	N.N.T. 1.1g Milaneuen 5回					
1/IV			++		++	++
	N.N.T. 2.3g Milaneuen 8回					
18/VIII			-	++	+	++

備考 8年前混合下疳ヲ冠狀溝ニ生ゼシ事アリト
云フ。當時賣藥療法ニテ根治セリト云フ。

第19例 藤原某 ♂ 29歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並 ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
3/X			-	++		±
	Himarsen 0.9g Giflon 2回					
18/X			-	++		±
	Himarsen 2.7g Giflon 6回					
5/XI			-	-		-
	Himarsen 4.05g Giflon 9回					
26/XI			-	-		-
	Himarsen 4.5g Giflon 10回					
30/XI			-	++		+
	Himarsen 5.4g Giflon 11回					
3/II			-	+		-

備考 約7年前冠狀溝ニ於ケル潰瘍ヲ生ズ醫師ノ
微毒性潰瘍ノ診断ノ下ニ「サルバルサン」注射8
本、腎筋注射5回ヲ受ケタリト。然ルニ4年前
肛門部ニ丘疹ヲ生ジタルモ之モ「サルバルサン」
2本ニテ治療セリト謂フ。

第20例 口出某 ♂ 37歳 第3期潜伏微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
3/X			++	+++		+++
	Himarsen 1.35g Giflon 3回					
18/X			±	+++		+
	Himarsen 3.6g Giflon 8回					
5/XI			-	++		+
	Himarsen 4.5g Giflon 10回					
16/XI			-	±		±
	Himarsen 4.95g Giflon 11回					
22/XI			-	+		+++
	Himarsen 5.4g Giflon 12回					
29/XI			-	+		++
	Himarsen 6.3g Giflon 12回					
3/II			-	+		++

備考 約10年前冠狀溝ニ於ケル潰瘍ヲ生ジタルモ賣藥ニテ治癒シタリト云フ。

第4節 無自覺性微毒ニ就テ

本論ニ於ケル症例並ニ其ノ驅微經過ハ第4表ニ示セル如シ。尙ホ本微毒ニ於ケル血清検査成績ニ就テハ他日當教室ヨリノ研究發表ヲ俟ツ。

第4表

第1例 小野某 ♀ 31歳 無自覺性微毒						
採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
6/I		+++	+++	+++	+++	+++
	「サルバルサン」注射3回市内某醫師					

12/II						
	N.N.T. 1.5g Milaneuen 7回					
10/III		-	-	++		±
	N.N.T. 2.6g Milaneuen 11回					
7/IV		-	-	+		-
	N.N.T. 4.1g Milaneuen 16回					
8/V		-	-	+		-
27/VIII		-	-	+		-

備考 感染時期不明。最近咽聲アリ耳鼻喉科診察血清検査ヲ受ケ血清反應ハ陽性ナリト云フ。咽聲以外現症トシテ認ムベキハ左右頸腺、顎下腺、腋窩腺並ニ鼠蹊腺ニ於ケル數箇ノ豌豆大腫脹ナリ。

第2例 石井某 ♀ 28歳 無自覺性微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
13/IX		+++	+++			+++
28/IX		+++	+++	+++		+++
	N.N.T. 0.8g Milaneuen 4回					
3/X		+++	++	+++		++
	N.N.T. 1.3g Milaneuen 8回					
4/XI		++	++	++		+++
	N.N.T. 2.1g Milaneuen 14回					
28/XI		±	±	+++		+++
	N.N.T. 2.9g Milaneuen 17回					
19/I		-	-	+++		++
	N.N.T. 3.3g Milaneuen 16回					
22/II		-	-	++		+
	第4回「クール」 N.N.T. 1.2g Milaneuen 6回					

30/III		-	-	++		++
	N.N.T. 2.4g					
18/V		-	-	++		++
7/XI			-	++		+

備考 感染時期不明現在迄ニ3回早産アリ何レモ死亡、現症トシテ腋窩腺左右共ニ1箇豌豆大ニ腫脹セリ。其ノ他著變ナシ。

第3例 津下某 ♀ 43歳 無自覺性微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
20/XII			++	++		++
	N.N.T. 2.64g Neo-olesal 12回					
2/II			++	++		++

備考 感染時期全然不明、局所ニ損傷ヲ認メシ事無シト謂フ。然ルニ最近腰痛ヲ訴フ。

第4例 松本某 ♀ 35歳 無自覺性微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
11/XI			+	++		++
	N.N.T. 0.6g Milaneuen 5回					
28/XI			++	++		++
	N.N.T. 1.56g Milaneuen 8回					
9/XII			+	++		++
	N.N.T. 3.0g Milaneuen 11回					
24/XII			++	++		++
	N.N.T. 4.92g Milaneuen 16回					
15/I			±	+		-

備考 感染時期全然不明、患者ト良人ノ性病ヲ否定ス。然ハニ肩部ノ緊張感ヲ最近訴フルニ至レリ。流産ハ過去ニ回アリ。

第5例 岡本某 ♀ 20歳 無自覺性微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
5/XII			±	±		+
	N.N.T. 0.6g Giflon 2回					
24/XII			-	±		-
	N.N.T. 2.4g Giflon 9回					
15/I			-	+		±

備考 最近流産アリ。微毒感染時期不明、良人ニハ微毒ノ既往症アリト謂フ。

第6例 高坂某 ♀ 28歳 無自覺性微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛剤注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
12/VII			-	+		-
	Sulfurol, Schweterin, Dmelcos-kur N.N.T. 3g Giflon 9回					
29/XI			-	±		-

備考 感染時期全然不明ナリト謂フ。良人ニハ微毒ノ既往症アリ。

第5節 驅微毒療法ヲ施セル晩發性

先天微毒並ニ神經微毒ニ對

スル血清反應ノ消長ニ就テ

晩發性微毒ニ於ケル驅微療法ハ極メテ困難ニシテ相當回数ノ「クール」ヲ以テスルモ血清反應ヘノ好影響ハ認メ難ク、本症例ノ如キモ Malaria-kur ヲ併用セル藥劑治療ヲ施セルモ種々血清反應ノ何レニ於テモ好轉ヲ示サザリキ。斯クノ如ク晩發性微毒ニ於ケル治療ハ實際至難ニシテ反覆間隔ヲ置キテ「クール」ヲ繰返スヨリ法無シト謂ヒ得ベシ。脊髓癆患者ノ症例ヲ見ルニ4例悉ク M. K. R. II. 中等度陽性或ハ強陽性ニシテ其ノ他反應何レモ陰性乃至ハ不定ヲ呈セシモノニシテ今文獻ヲ繙クニ

Ascoli 氏ハ本症ニ於ケル WaR. ノ陽性率ハ 20—30%, Zieler 氏ハ 30—40% ノ陽性率ヲ示スニ過ギズ。然ルニ余ハ M. K. R. II. ヲ以テ僅少ノ症例ナガラ 4 例ニ於テ悉ク陽性ノ成績 (100%) 陽性率ヲ得タリ。尙ホ實際多數ノ症例ニ就テ檢スレバ或ハ此陽性率ハ動搖アルヤモ知レズト雖モ恐ラク依然高率ヲ示スモノナリト思惟ス (第 5 表參照)。

第 5 表

第 1 例 江本某 ♀ 18 歳 晩發性先天微毒						
採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
3/IX			++	++	++	++
	Neohramisol 1.6g Milanenen 12回					
25/X			++	++	++	++
	Neohramisol 2.2g Milanenen 12回 Malaria-kur					
20/XI			++	++	++	++
	N.N.T. 0.72g					
11/I			++	++	++	++
	N.N.T. 2.16g Milanenen 4回					
20/V			++	++		++

備考 患者ハ未婚ニシテ約 3 箇年前ヨリ耳聾、耳鼻科ニ於テ晩發性先天微毒ノ診斷ヲ下サレタト云フ。現症トシテ「ハッチンソン氏」3 徴候ナリ。

第 2 例 原田某 ♀ 26 歳 晩發性先天微毒

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
8/IV			++	++	++	++
	N.N.T. 2.1g Milanenen 7回					

6/VII			++	++	++	++
-------	--	--	----	----	----	----

備考 現症トシテ全身ニ互ル疲勞感アリ同時ニ平常午後ニ至リ頭痛ヲ訴フル。尙ホ昨年 5 月阪大病院ニ於テ先天性微毒ノ診斷ノ下ニ「サルバルサン」20 本ヲ受ケタリト云フ。尙ホ患者ニ於テハ「ハッチンソン氏」3 徴候著明ニ認メラル。

第 3 例 東原某 ♀ 50 歳 脊髄癆

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
15/II			—	++	—	—
	Sulfurol 並ニ水銀塗布療法及ビ「マラリヤ」療法 N.N.T. 3.12					
17/VI			—	±	—	—
26/VI			—	±	—	—
18/IX			—	±	—	—
6/XII			—	±	—	—

備考 感染時期不明ニシテ昭和 3 年全身倦怠腰痛ノタメ醫師ノ診療ヲ受ケタリ。當時血清反應成績強陽性ニシテ第 3 期潜伏微毒ナリトシテ「サルバルサン劑」44 回、蒼鉛劑 62 回ノ注射ヲ受ケタリト云フ。然ルニ最近不眠症ノタメ精神の苦痛著シク尙ホ視力障礙ヲ訴フルニ至レリト云フ。

第 4 例 油木某 ♂ 28 歳 脊髄癆

採血日	「サルバルサン」並ニ蒼鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
26/VII			—	++	—	±

備考 患者ハ 19 歳ニシテ包皮ニ潰瘍ヲ生ジ當時硬性下疳ノ診斷ノ下ニ「サルバルサン」15 本ヲ受ケタリト云フ。然ルニ 2 年前ヨリ歩行困難アリ東大病院ニ於テ脊髄癆ノ診斷ノ下ニ「サルバルサン」27 gram ノ注射ヲ受ケタリト云フ。現症トシテ動搖性歩行、瞑目直立不能、膝蓋腱反射消失、瞳孔強直等ノ徴候著明ニ認メラル。勿論脊髄液ノ所見ハ本病ニ特異ノ性狀ヲ示セリ。

第5例 安原某 ♂ 51歳 脊髓癆

採血日	「サルバルサン」並 ニ 砒鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
4/II			—	++		±
	Malaria-kur					

備考 患者ハ微毒ニ感染ヲ否定ス。現症トシテ前
記第4例ト同様ノ症状ヲ呈ス。

第6例 松井某 ♂ 36歳

採血日	「サルバルサン」並 ニ 砒鉛劑注射總量	W.	B.	M.	K.	村田
11/II			—	++		—
	Malaria-kur					

備考 患者ハ微毒感染ヲ否定ス。現症トシテ何等
異狀ヲ認メズ。然ルニ脊髓液調査ノ結果明カニ
微毒ニ感染セルヲ知レリ。

第3章 M. K. R. II. ト脊髓液検査成績ニ於テ

本章ニ於テハ専ラ M. K. R. II. ガ陽性反應ヲ呈シ其ノ他ノ血清反應ガ陰性乃至不定ヲ示セシ場合果シテ
斯ノ如キ症例ニ於ケル本法ノ成績ヲ以テ非特異性反應ト解スベキヤ否ヤヲ當該患者ノ脊髓液調査成績ト
比較對照シ以テ本法ノ判定結果ヲ觀察セントス。即チ第6表ノ如キ成績ヲ得タリ。

第 6 表

(Zn. ハ細胞數, Ne. ハ Neune I. Phase, Py. ハ Pandy, Wa. ハ Weichbrodt ノ略)

症例 番號	患者姓名	年齢	性	診 断	採血月日	血清反應成績					脊髓液検査成績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.
1	國鹽某	38	♂	第3期潜伏微毒	28/IV	—	—	+	—		16/3	—	±	±	—

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

2	月原某	38	♂	第3期潜伏微毒	14/IV	—	—	—	+	+	6/3	—	++	+	—
---	-----	----	---	---------	-------	---	---	---	---	---	-----	---	----	---	---

症例 番號	患者姓名	年齢	性	診 断	採血月日	血清反應成績					脊髄液檢査成績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.
3	古市某	64	♂	第3期潜伏微毒	9/X	—	—	—		++	11/3	—	++	++	—

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

4	高木某	58	♂	第3期潜伏微毒	4/IV	—	—	+		++	10/3	—	++	++	—
---	-----	----	---	---------	------	---	---	---	--	----	------	---	----	----	---

22/I

—	—	—	—	+	8/3	—	++	+	—
---	---	---	---	---	-----	---	----	---	---

5	岡野某	33	♂	第3期潜伏微毒	18/VI	—	—	—		+	14/3	±	+++	+++	—
---	-----	----	---	---------	-------	---	---	---	--	---	------	---	-----	-----	---

症例 番號	患者姓名	年齡	性	診 斷	採血月日	血清反應成績					脊髓液檢查成績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.
					15/IV	—	—	—	—	—	7/3	—	+	+	—

Mastix 曲線

Gokisol 曲線

6	伊吹某	35	♂	第3期潜伏梅毒	4/V	卅	卅	卅	卅	卅	23/3	卅	卅	卅	卅
---	-----	----	---	---------	-----	---	---	---	---	---	------	---	---	---	---

7	鍋沼某	33	♂	第3期潜伏梅毒	15/VII	—	—	—	卅	4	—	卅	卅	—	—
---	-----	----	---	---------	--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

8	武並某	42	♂	第3期潜伏梅毒	12/IX	—	—	卅	15/3	卅	卅	卅	—	—	—
---	-----	----	---	---------	-------	---	---	---	------	---	---	---	---	---	---

症例 番號	患者姓名	年齡	性	診 斷	採血月日	血 清 反 應 成 績					脊 髓 液 檢 查 成 績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.

9	油木某	28	♂	脊 髓 癆	22/VII		—	±		卅	6/3	±	卅	卅	—
---	-----	----	---	-------	--------	--	---	---	--	---	-----	---	---	---	---

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

10	高坂某	33	♂	第3期潜伏微毒	3/VII		—	—		++	8/3	±	卅	卅	—
----	-----	----	---	---------	-------	--	---	---	--	----	-----	---	---	---	---

11	高坂某	28	♀	第3期潜伏微毒	12/VII		—	—		+	2/3	—	++	++	—
----	-----	----	---	---------	--------	--	---	---	--	---	-----	---	----	----	---

12	泉山某	41	♂	第3期潜伏微毒	20/III		—	+	+	++	6/3	±	卅	卅	—
----	-----	----	---	---------	--------	--	---	---	---	----	-----	---	---	---	---

症例 番號	患者姓名	年齡	性	診 斷	採血月日	血清反應成績					脊髓液檢查成績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR

13	東原某	50	♀	脊 髓 癆	15/I		-	-	+	++	12/3	-	++	+++	-
----	-----	----	---	-------	------	--	---	---	---	----	------	---	----	-----	---

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

14	神原某	47	♂	脊 髓 癆	18/I		-	-		++	14/3	+	+++	++	-
----	-----	----	---	-------	------	--	---	---	--	----	------	---	-----	----	---

15	坂根某	40	♂	第3期潜伏梅毒	9/V		-	-		+++	14/3	+	++	++	-
----	-----	----	---	---------	-----	--	---	---	--	-----	------	---	----	----	---

16	和泉某	44	♂	第3期潜伏梅毒	15/III		-	±		++	10/3	+	+++	+++	-
----	-----	----	---	---------	--------	--	---	---	--	----	------	---	-----	-----	---

症例 番號	患者姓名	年齡	性	診 斷	採血月日	血清反應成績					脊 髓 液 檢 查 成 績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.
17	山下某	42	♂	第3期潜伏微毒	9/VII		—	—	++	++	8/3	±	+++	+++	—

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

18	岡本某	47	♂	第3期潜伏微毒	29/III		—	—	—	+	3/3	±	++	++	—
----	-----	----	---	---------	--------	--	---	---	---	---	-----	---	----	----	---

19	鹽飽某	53	♂	第3期潜伏微毒	13/V		—	—	—	++	10/3	+	+++	+++	—
----	-----	----	---	---------	------	--	---	---	---	----	------	---	-----	-----	---

20	安原某	51	♂	脊 髓 癆	4/II		—	±		++		+	+++	+++	+++
----	-----	----	---	-------	------	--	---	---	--	----	--	---	-----	-----	-----

症例 番號	患者姓名	年齢	性	診 断	採血月日	血清反應成績					脊髄液検査成績				
						WaR.	B.	村	K.	M.	Zn.	Ne.	Py.	Wa.	WaR.
21	松井某	39	♂	麻痺狂	11/11		—	—		++		+++	+++	+++	+++

Mastix 曲線

Goldsol 曲線

第4章 考 按

今文獻上本法ノ實驗成績ニ就テ觀察スルニ東大、木下氏ニ據レバ確實ナル梅毒患者 243 名ニ就テノ成績ハ梅毒各期特ニ潜伏梅毒竝ニ初期梅毒ニ關シテノ M. K. R. II. ハ B. 氏、村田氏、M. 氏第 3 濁濁反應ニ比シ正確且銳敏度ニ於テ優秀ナルモノナリト謂ヒ、非梅毒患者 450 名ニ於ケル M. K. R. II. ハ 1.5 % ヲ示シ B. 氏竝ニ村田氏反應ニ於テハ 0 % ヲ示セリト謂フ。又阪大、西山氏ニ據レバ東大、木下氏ト同様ノ成績ヲ收メタリト謂ヒ只氏ハ非特異性率ニ關シテハ癩以外患者ノ既往症ヲ精査スル事ニヨリ何等考慮スル必要ナク本法ヲ以テ優秀ナル血清反應ナリト主張セリ。他方九大古賀、宮崎、大橋 3 氏ノ報告ニヨレバ本法ハ銳敏度ニ於テハ後來ノ血清反應中頭角ヲ現ハセルモノナレ共非特異性ノ高率ナルヲ以テ Devot 氏同様本法ノ判定ニ當リテハ單獨採用ハ注意ヲ要シ他ノ反應ト對照シ、始メテ斷定ヲ下ス可キナリト主張セリ。實際 M. K. R. II. ノ非特異性率ハ引用セル症例ノ精疎ノ度合ニ

應ジテ多少ノ異動ヲ認ム。Fiorio 氏ハ 0.6%, Stemplinger 氏ハ 2%, 木下氏 1.5% ナレドモ九大諸氏ノ報告ハ 8.2 % ヲ示セリト謂フ。余ノ實驗成績ヨリスレバ非特異性率ハ 326 名ノ非梅毒患者ニ就テ檢スルニ M. K. R. II. 7%, B. 氏反應ニ於テ 2.1%, 村田氏反應ニ於テ 1.2% ヲ示セリ。然ルニ健康人 60 名ニ就テノ調査ニ於テハ反對ニ M. K. R. II. 3.3%, B. 氏反應 5%, Kahn 氏反應亦 5%, 村田氏反應ニ於テ 6.6% ヲ示セリ。實際上 M. K. R. II. ノ非特異性率ハ相當高率ヲ示スモノナリトモ謂フヲ得ベキモ余ヲシテ謂ハシムレバ各自引用セル症例中果シテ幾%カノ潜伏梅毒ヲ全然否定シ得ザル今日、單ニ引用症例特ニ非梅毒患者ニ於ケル血清反應ノ陽性率ヲ以テ直ニ非特異性ヲ判斷スル事ハ稍々早計ナル憾無キニシモ非ズ。吾々臨牀家トシテ實際上最モ必要ナリト信ゼラルル點ハ非梅毒患者ニ現ハルル非特異性率ヨリモ、本反應ニ限ラズ或ハ他ノ血清反應ヲ以テシテ如何ニ銳敏ニ且正確ニ夫レガ梅毒血清ナルカタ判定スルニアリト信ズ。

スル意味ヨリシテ M. K. R. II. テ觀察スルニ東西諸家ノ報告ハ期セズシテ相一致ス。即チ本法ハ微毒血清ニ關スル限リ他ノ反應ニ比シテ著明ニ銳敏度高ク最も忠實ニ反應ヲ現ハスモノナリト謂ハル。即チ余ガ今回ノ實驗ヲ以テスルモ微毒血清ニ於ケル M. K. R. II. ノ優秀ナルハ事實ニシテ特ニ興味アルハ B. 氏, 村田氏, Kahn 氏諸反應何レモ陰性ニシテ本法ノミガ弱陽性乃至ハ中等度以上ノ陽性ヲ呈セル場合ニ, 試ミニ患者ノ脊髓液ヲ検査セシニ果シテ其處ニ微毒性反應陽性ナルヲ觀タルガ故ニ本血清ニ於ケル M. K. R. II. ノ陽性成績モ意義アルモノト見做シテ然カル可キ乎。而シテ余ガ實驗セル症例數ハ尙ホ充分ナラズト雖モ 21 例悉ク本法ト脊髓液ノ検査成績ノ相一致セルヲ以テスレバ如何ニ M. K. R. II. ノ他血清反應ヨリモ正確且銳敏ニ反應スルカタ推知シ得可シ。斯クノ如ク驅微療法ニ於ケル成績ノ指針トシテ M. K. R. II. ハ最も確實且銳敏ナルモノナリト信ズ。

第5章 結 論

M. K. R. II. ハ微毒竝ニ驅微ニ關スル限リ他ノ微毒血清反應ニ比シ遙ニ銳敏且正確ナルヲ以テ微毒治療ノ經過ノ標準ニ本法ヲ選ブ事最も當ヲ得タルモノト思惟ス。

擱筆スルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校正ヲ忝フセシ恩師根岸教授ニ深甚ノ謝意ヲ捧グ。

文 獻

- 1) 木下正夫, 皮尿誌, 第35卷, 第4號, 462頁,
- 2) 西山敬三, 皮尿誌, 第35卷, 第3號, 289頁.
- 3) 古賀, 宮崎, 大橋, 皮泌, 第3卷, 第6號, 681頁.
- 4) *Meinicke*, Zbl. f. Bakt., 125, 1932. 5) *Meinicke*, Zbl. f. Bakt., 124, 1932. 6) *Dahr*, Dermat. Wschr., 98, Nr. 17, 1934. 7) *Stempler*, Dermat. Wschr., 49, 265, 1935.
- 8) *Leikowitz*, Zbl. f. Haut- u. Geschlechtskrankheiten, 49, 264, 1935. 9) *Devot*, Dermat. Wschr., 97, Nr. 36, 1933. 10) *Fiorio*, Zbl. f. Haut- u. Geschlechtskrankheiten, 45, 515, 1933.